

第1回 北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会

(概要)

先般開催した、令和7年度第1回北海道森林管理局国有林材供給調整検討委員会の概要について、次のとおりお知らせします。

1. 日時

令和7年6月23日(月) 13時30分～15時30分

2. 会場

北海道森林管理局 3階 大会議室

3. 主な意見等

- 原木入荷については減少傾向だが、在庫については、製品需要が回復していないため不足感がない状況。製材の荷動きは、全体的には横ばいまたは低調で推移している。今年度の道有林における立木販売量は、昨年度と同様で56万7千m³を予定している。道産木材の利用拡大に向け、HOKKAIDO WOODのブランドを活用、また、HOKKAIDO WOOD BUILDINGとして道内の非住宅92棟を登録。今年度から非住宅だけではなく、住宅における道産木材の利用促進のためにHOKKAIDO WOOD HOUSE認定制度を開始、建築材に道産木材を一定量以上使用する住宅に対して7月から補助を実施予定。
- 植付を順調に終了し、下刈、間伐、主伐を並行して実施中。カラマツ合板原木について、道内、道外向けとも問題なく納入できている状況。製材向け原木について、問題なく推移しているが、一部の工場では、買い控えが見られる。チップ工場の原木在庫については、相変わらず低位で推移している。梱包材、パレット、産業資材については、輸出の落ち込み等、低迷したまま推移し、回復が見られない状況。造材について、市況等を見極めながらの実施、極端な入荷制限にはならないと考えている。
- 造林事業も行っている素材生産事業者は植付、下刈時期と重なりフル稼働の状況。運材の人手不足や燃料費の高騰等により非常に厳しく、特に中間土場への輸送事業者の確保が大変。また、人材確保や機械の更新等で実質生産コストが上昇し、経営は厳しい状況。ウッドショックの反動による需要低迷から比べると回復傾向にはあるが、価格面ではコロナ以前の状況に戻った感があり、非常に厳しい状況が続いている。
- 昨年夏の虫害により、原木の購入を見合わせた工場があり、一部で不足感がある。一般の建築向けの製品については、輸入製品が非常に不安定な状況で、今後の入荷が少ないことが予想され、一部トドマツ製品への移行もあることから、工場では生産調整する状況にはない。原木価格については、現状は虫害や品傷みがほとんどなく、大きな乱高下がないと考えている。合板工場については、昨年在庫過多のため、入荷量を制限していたが、現在は集荷に動いている。工場での生産は順調だが、製品の出荷が滞っており保管倉庫が満杯で、一部生産調整している状況がある。道外移出のカラマツについては、低調ながら受注の極端な落ち込みはなく、原木の入荷制限等も大きくはない状況。本州において、スギ、ヒノキの数量が少ないため不足感があり、価格も上がっている為、北海道からのカラマツ

集荷の動きあり。

- 製紙用原材料について、四国の製紙工場の生産停止により、新聞用紙の生産が全国的に不足すると見込まれ、北海道でも製紙用のチップ原料の逼迫や製材工場等のチップの減少が予想されていたが、輸入チップや古紙等で最低限の確保はできた。原材料は依然として、民間流通が減っている状況。
- トドマツ原木について、数量は確保できているが、建築材用としては不足している状況。トドマツ2×4材は、JAS 規格の見直しで、ハウスメーカーから設計の見直しがあり、出荷が止まっている状況。夏場の材の傷みが非常に心配、品質の管理とスムーズな搬出が必要。非住宅について、国産材にシフトする傾向があるが、品質やサプライチェーンなど、継続的に供給が課題。人手不足への対策として、社会的な存在意義など業界のイメージアップが必要。
- カラマツの梱包材やパレットの需要は、数年変わっていない。夏場の虫害の関係もあり、必要な物をタイムリーに調達し、あまり在庫を抱えないように考えており、原木供給サイドでも品質管理等を考えてほしい。大径材を使用し、安定的な原料の利用を考えている。
- バイオマス発電所関係について、原材料の単価が高止まりのため、在庫を半年分程度に減らして対応している。原木とチップを計画的に集荷する。CO₂ の排出について、バイオマス発電に係るライフサイクル GHG の関係で、遠距離での収集はできなくなると考える。パーティクルボードの原料がなかなか集まらない。また、ライフサイクルアセスメントにより、パーティクルボードの原料から製作において、今後は CO₂ の排出量が少ないものを優先的に使用する動きになっている。能登半島豪雨災害で発生した被災木の受入を検討、建築廃材など数量がなかなか集まらないため、原料集荷の一助になると考えている。